



学校だより

2月号

令和5年1月31日
横浜市立能見台南小学校



← 学校ホームページ
QRコード

「叱る」

校長 榊原 一紀

年が明けて早いもので令和5年も1カ月が過ぎました。先週は10年に一度の寒波が来たという事で、寒い日がたくさんありました。しかし、休み時間には多くの子ども達が外に出て長縄をしていたり、ドッジボールを楽しんでいたりする姿が見られました。元気な子ども達の姿を見るのはうれしいものです。

横浜市では小学校と幼稚園や保育園との連携を深めるために、幼保小教育連携事業として話し合いや参観、講演会などの取組を行っています。今年度の講演会は、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師で神奈川県私立幼稚園連合会教育相談員である鈴木敦子先生に「子供を叱る～そのメリットとデメリット～」という内容でお話いただきました。私は講演を聞き、次の2つの内容が印象に残りました。

「本人の特性を理解した指導が大切」 「自己満足のために叱ることに気をつける」

1つ目は、私自身も意識しています。初めて会った子や性格が分からない子へ叱る場面でも、なるべく背景に何があるのか想像し、どのように育ててほしいのかを考えながら、叱るのではなく、語りかけたり、注意をしたりします。2つ目は、普段から気を付けようと感じていることでした。自己満足のために叱る人はいないと思いますが、結果的にそうになってしまうことがあります。鈴木先生の話の中でも、悪いことをした子が叱られたときに、何も言わずきちんと聞く姿を見せると、「正しい事を伝えている自分はすばらしい」と気分がよくなり、叱っている方に満足感や自己肯定感が生まれるそうです。

大切なのは、本人の特性をきちんと理解し、自分が満足するために叱るのではなく、子どもの成長のビジョンをもって伝えることだと思います。私が担任をしていた時に、「先生は、〇〇さんには注意しない」と言われたことがあります。みんなと同じように指導されれば、周りの児童は満足しますが、〇〇さんの改善や成長には結びつかないと考え、人はそれぞれ違う事、そして指導も違う事を話しました。

この講演はYouTubeで配信されています。教職員と保護者を対象にした講演会ですので、保護者の方も講演会をご視聴することができます。12月に配付したプリントをご確認ください。また、「あおぞら谷津保育園 地域子育て支援センター あおぞら」のホームページにリンクが貼ってありますので、そちらからも視聴できます。